

ソフトウェア工学分野の研究支援事業

研究提案公募 [2016年度]

公募期間:2016年2月12日(金)～3月11日(金)

●公募対象

研究区分

A区分:ソフトウェア工学分野の実用化を目指した研究

B区分:ソフトウェア工学・システム工学の実践的な適用に関する研究

提案者

国内の大学・公的研究機関

●スケジュール

2016年2月12日～3月11日(公募期間)

2016年4月下旬(審査結果の通知)

2016年6月1日～2017年2月13日(研究期間)

●費用総額

1,400万円(税込み)以内

●研究成果に係る知的財産権の取扱い

産業技術力強化法第19条(日本版バイ・ドール制度)に基づく

●2016年度事業の特色

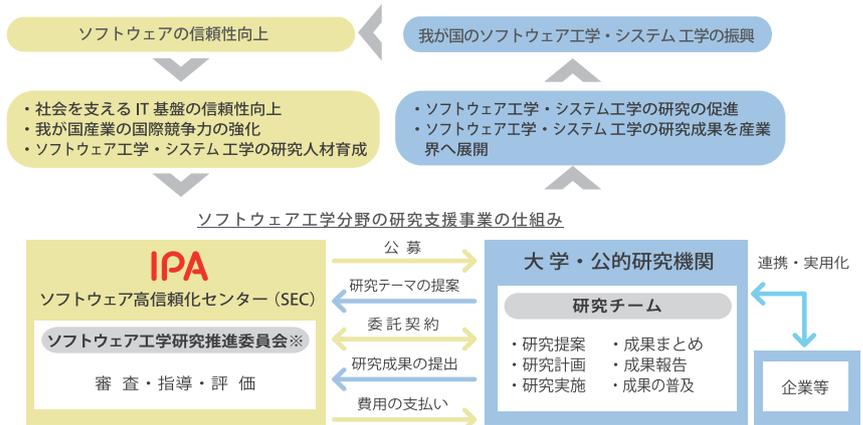
企業等と連携して、研究期間終了後、研究成果を実用化してください
研究の一部を企業等に再委託できます

2016年度ソフトウェア工学分野の研究支援事業とは？

独立行政法人情報処理推進機構／ソフトウェア高信頼化センター（IPA/SEC）では、我が国のソフトウェア工学・システム工学の振興およびその成果の産業界への移転を通じて、ソフトウェアの信頼性向上に貢献することを目的に、2012年度から本事業を実施しています。具体的には、大学・公的研究機関から研究提案を広く公募し、優れた研究提案に対して支援しています。

事業内容・研究成果：

<http://www.ipa.go.jp/sec/rise/index.html>



2016年2月公募要領より一部抜粋

公募案内：<http://www.ipa.go.jp/about/kobo/kobo20160212.html>

1. 公募対象

(1) 研究区分

(A 区分) ソフトウェア工学分野の実用化を目指した研究

ソフトウェア開発・システム開発において共通して適用可能な、要求工学、プロセス改善、高信頼性、アジャイル開発、形式手法、モデルベース開発等のソフトウェア工学分野の実用化を目指した研究。

(B 区分) ソフトウェア工学・システム工学の実践的な適用に関する研究

特定領域に対するソフトウェア開発現場への適用を目的としたソフトウェア工学の成果・手法を実用化する研究。またはスマートコミュニティ、ヘルスケア、ロボット、次世代自動車と交通システム等の複雑な統合システム（System of Systems）の研究開発において、ソフトウェア工学・システム工学の成果・手法を適用する研究。ソフトウェアメトリクス、企業事例研究の発展、マイグレーション、モデルベース開発、ソフトウェア品質評価、システムの安全性、社会に対するサービスイメージを伴ったシステムに関する実用化に関する研究。

(2) 提案者

法人格を持つ国内の大学（国立大学、公立大学、私立大学、株式会社立大学）（以下「大学」という。）または研究機関（国公立研究機関、独立行政法人（ただし経済産業省所管の機関・法人を除く））とする。複数大学・機関による共同提案はできません。研究の一部を企業等1社に再委託が可能。

2. 対象経費

人件費／事務経費（旅費交通費、資料費、賃金、謝金、学会参加費、外注費、借料）／再委託費／一般管理費

3. 成果の実用化

連携する企業が、研究期間終了後、提案者の研究成果またはその一部を引き継いで実用化すること。公募提案に際しては連携企業が実用化計画書を作成し、添付する。（実用化とは研究成果の製品化による販売、組織内の開発現場への適用等による産業界への具体的な展開を指す）

4. スケジュール

公募期間：2016年2月12日～3月11日
採否通知：2016年4月下旬
研究期間：2016年6月1日～2017年2月13日
中間報告：2016年11月頃
最終報告：2017年1月頃

5. その他

産業界の有識者から構成されるソフトウェア工学研究推進委員会（RISE委員会）において報告を行うとともに、研究途中段階でのアドバイスや指導を受ける。